

異常高温対策緊急情報

高温気象に対応した後期栄養対策 ～1等米生産に向けて～

令和8年7月8日

新発田農業普及指導センター

1 気象情報の入手

- (1) 新潟地方気象台 1 か月予報；毎週木曜日 PM2:30 公表
3か月予報；毎月末の火曜日(25 日前後) PM2:00 公表
- (2) 県 HP、関係機関 フェーン・異常高温・高胞差情報

2 高温時の栽培管理

(1) 水管理による後期栄養維持

ア 飽水管理 ～長く湛めておかない&乾かし過ぎない～

○かん水し自然状態で田面の水がなくなり、溝や足跡の底に水が溜まっている状態(写真)になったらかん水する(かん水は、晴天日では午前中、曇天日では朝が望ましい)。

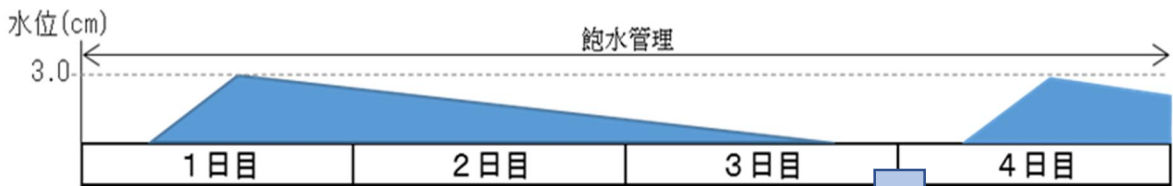
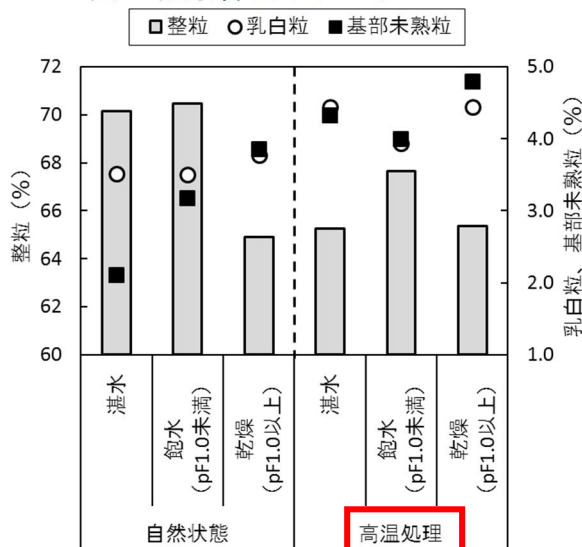


図1 飽水管理のイメージ



写真

図2 登熟期の水管理と品質 (H25, 26)

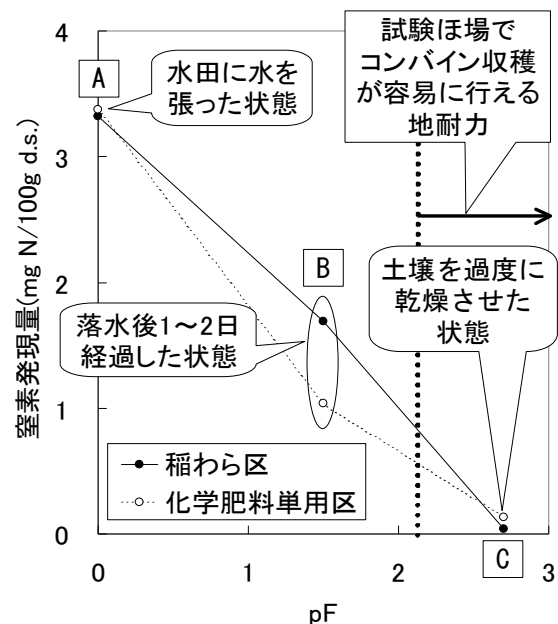
- 高温登熟下においては、出穂期から出穂期 25 日後まで飽水管理を行うと、白未熟粒の発生が抑制され、整粒歩合が高まる。

イ 飽水管理による後期栄養の確保

- 土壌からの窒素発現は、土壌を乾燥させると減少し、過度に乾燥させると著しく抑制される。
- 飽水管理により土壌からの窒素発現を促し、後期栄養の確保を図る。
- (右図 土壌 pF 値と窒素発現量)

※ pF 値のおおむねの目安

0：湛水状態、1：飽水状態、2：湿潤状態
3.8：初期しおれ点、4.5：永久しおれ点



(2) 穂肥による後期栄養維持
ア 品種別出穂期の葉色の目安

品種名	出穂期の葉色	全量基肥体系の場合	分施肥体系の場合
なつひめ	39～41	①出穂前 23 日以降、葉色を確認 ②出穂期の葉色の目安を下回ると予想される場合は、追加穂肥を行う ※コシヒカリの場合は、下の「イ」を参考に、追加穂肥を行う	①2回目の穂肥後、葉色を確認 ②1 か月予想を確認 →高温確率が 40%以上 ※N 成分で 1 kg/10a 程度をめやすに追肥し、出穂期葉色を確保
ゆきん子舞	36～38		
つきあかり	40～42		
こしいぶき	34		
コシヒカリ	32～34※		
新之助	34～36		

※コシヒカリは倒伏が懸念されるため下記による。

イ コシヒカリの穂肥追加の目安

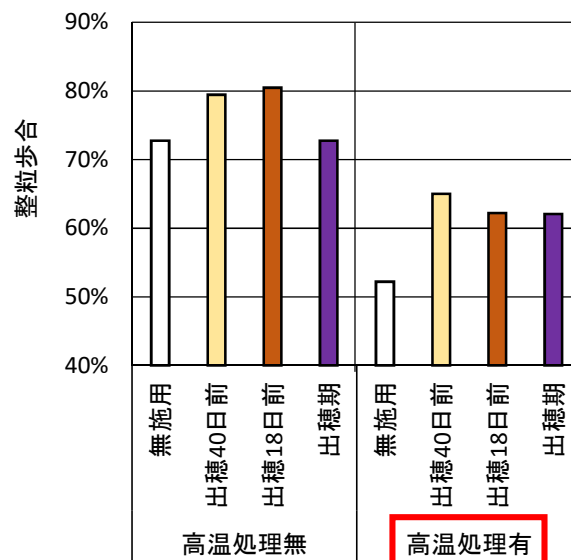
施肥体系			判断時期と葉色の目安		施肥時期と施肥量の目安	
			出穂前	葉色	出穂前	施用量 N 成分
全量基肥	慣行栽培 ※追肥：化成肥料施用		幼穂形成期以降	出穂期に 32 以下予想	10 日前まで	1kg/10a 程度
	減減栽培 ※追肥：有機 100%肥料使用		10 日前頃	30 以下	10～5 日	2kg/10a
分施肥体系	慣行栽培 ※3回目：化成肥料施用		3 日	31 以下	3 日	上限 1 kg/10a
	減減栽培 ※3回目：有機 50%肥料施用		6 日	33 以下	3 日	1 kg/10a
	減減栽培 3回目：有機	標準的なほ場	6 日	33 以下	6～3日	1 kg/10a
	100%肥料施用	低地力ほ場	幼穂形成期	31 未満	6～3日	2kg/10a

ウ 高温時の流し込み施肥の活用

- 田面の高低差が大きいほ場では、施肥ムラが大きくなるので流し込みはしない。
- 肥料の流入時間が長くなると施肥ムラが生じるので、かんがい水がどのくらいで目標水位になるかを事前確認してから実施する。
- 施肥後 3 日程度は湛水状態が維持できるほ場で行う。
- 施肥前の田面水はヒタヒタ状態に落水しておき、水尻を閉じてかん水と一緒に肥料を流し込む。

3 ケイ酸追肥

- 出穂前 40 日から 18 日前の間にケイ酸質資材を散布することにより、高温年での品質低下を軽減できる。
- (右図:ケイ酸追肥時期別の整粒歩合)



※高温処理は出穂後1か月間、約 2℃上昇